

令和8年度 岡崎市立竜谷小学校 教育指針

1 竜谷小の教育

(1) 教育目標

次代を見据えた教育活動の創造に努め、本校の恵まれた特色ある自然環境を生かしながら、すぐれた創造性（知）、豊かな人間性（徳）、たくましい実践力（体）を身に付けた、未来社会の創り手となる子供を育成する。

(2) めざす子供像…校訓より

○げんきな子

自他の健康や安全に気を付け、進んで体を鍛え、笑顔いっぱいに活動できる子

○がんばる子

自分が定めた目標に向け、最後まで粘り強く取り組むことができる子

○すなおな子

豊かな感性や思いやりの心を持ち、友達や学校、地域に進んで貢献できる子

○くふうする子

自ら問題を発見し、よい方法や手段を考えながら自分で解決できる子

(3) めざす教師像

○「一人を粗末にすると、教育はその光を失う」の理念のもと、一人一人の子供の背景や多様性を受け止めながら、大切に慈しむことのできる教師。

○教育観・指導観の更新を怠らず自己研鑽に努め、進んで学び続ける自身の姿が子供の学び方のロールモデルとなることのできる教師。

○互いに敬愛し合うとともに、自身の個性や持ち味を生かしながら、主体性を発揮して学校運営にかかわることのできる教職員。

2 経営方針

○子供の大切な命と心を守ることを最優先事項とし、学校内に潜む危険や課題を教職員で定期的に点検・共有し、未然防止と早期対応に取り組むことで、安心・安全な教育活動を展開する。

○学習基盤となる「情報活用能力」や、未知の状況にも対応できる「学ぶ力＝計画する力・比べる力・関わる力」を身に付け、自己の生き方に生かし、未来社会の創り手となることのできる子供を育てる。

○家庭や地域の願いを受け止め連携を図りながら、小規模校の特徴を生かし、温かい人間関係の中で自他を尊重して生きることのできる心豊かな子供を育てる。

○礼儀や礼節を重んじ、規律ある生活及び学習習慣を身に付けるとともに、確かな知識と的確な判断力をもって、自ら考え、主体的に行動できる実践力のある子供を育てる。

○教職員一人一人が個性や持ち味を生かしながら、人間性・専門性・指導性を共に磨き合うことで自己を高め、信頼される学校づくりを推進する。

3 本年度の重点努力目標

(1) すぐれた創造性（知）を育てる

- ・学習の見通しをもたせ、学習の過程を振り返る場を授業の中に位置付けることで、子供が自分の学びを調整しながら課題解決に取り組む「学ぶ力」を育てる。
- ・個で考える学習と、考えを交流し深め合う学習を効果的に組み合わせた授業を積み重ね、考えを再構築していく学習過程を大切にすることで、主体的に学ぶ姿を引き出す。
- ・総合的な学習の時間（情報領域含む）や各教科の学習において、学年段階や学習の目的に応じて情報を集め、整理し、表現する授業を構想し、情報や情報手段を自分で選び、活用しようとする力を育てる。

(2) 豊かな人間性（徳）を育てる

- ・日常の教育活動の中で見られる身近な事象を教材として捉え、自分たちの生活と地域とのつながりに気付かせ、ふるさと竜谷への誇りと愛着がもてるようにする。
- ・縦割り活動において、異学年が交流できる機会を効果的に位置付けることで、円滑な人間関係を構築し、思いやりの心を育む。
- ・命や人権に関わる課題について、日常の指導を土台としながら、ねらいをもった学習や取組を通して、自分や周りの人を大切にしようとする心を育てる。
- ・保護者や地域の声に謙虚に耳を傾け、保護者の願いと地域の期待を捉えられるよう情報の収集と発信に努め教育活動に反映させる。

(3) たくましい実践力（体）を育てる

- ・代表委員会を中心とした委員会活動や、縦割り活動・係活動等において、子供が主体的に行動する力を育てる。
- ・学校行事や学級活動において、子供が自主的に企画運営し活躍できる場を増やすことで、役割に責任をもたせる。
- ・挨拶や返事、時間を意識したけじめある生活、清掃活動の充実、外遊びの励行など、規律と望ましい生活習慣を定着させる。
- ・防災について、正しい知識、的確な判断力、場に応じた行動、自ら危険回避できる実践力を育む。

(4) 多忙化解消にかかる業務改善について

- ・行事や会議、研究授業の論点等を事前に分かりやすく共有し、見通しをもった準備とスムーズな運営につなげるために、スケジュールを明確にした起案や点検等の仕組みを再度整える
- ・教職員一人一人のタスクマネジメント力及びタイムマネジメント力の向上を図るために、学校として、学校全体の年間・月間スケジュールや各業務の進行状況を時間軸及び業務量の視点から整理・可視化し、定期的に確認・共有する。
- ・授業の準備、職員同士の情報交換や連絡伝達などに、電子データやグループウェアを効果的に活用するとともに、データ保存の方法の見直しと整理をする。
- ・「やらねばならない業務」から「やりがいある業務」への転換を目指し、職場全体での担当者のサポート体制と温かなフィードバックを行う。
- ・担当に関わらず、学校運営や研究等、学校運営全体への参画意識をもち、気付きや改善のアイデアを気軽に出し合える雰囲気大切にしながら、全体で知恵を出し合うボトムアップ型の業務改善を推進する。